

# Structuring the Process of Disaster Relief Nurses' Cognitive Evaluation of Stress

松清, 由美子

<https://doi.org/10.15017/1831398>

---

出版情報 : Kyushu University, 2017, 博士 (看護学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏名	松清 由美子
論文名	Structuring the Process of Disaster Relief Nurses' Cognitive Evaluation of Stress (災害救援看護職者のストレスの認知的評価から活動後の適応・不適応に至るプロセスの構造化)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 藤田 君支 副査 九州大学 教授 加来 恒壽 副査 九州大学 教授 樗木 晶子

### 論文審査の結果の要旨

本研究の目的は、災害救援看護職者の救援活動におけるストレスの認知的評価から活動後の感情の変化、長期にわたる適応・不適応に至るまでのプロセスを構造化することである。研究方法は無記名自記式質問紙を使用し、対象は東日本大震災の被災県以外から被災地に入った535名の災害救援看護者とした。調査はLazarus & Folkmanのストレス理論を基に、ストレスの認知的評価、活動後の感情の変化、再評価と適応・不適応の3段階に分け、各段階に影響を及ぼす要因を設定した。調査には災害救援者のチェックリスト(加藤,2006)、およびImpact of Event Scale-Revised (飛鳥井,1999)を使用した。

その結果、構造モデルの内生変数の関係はストレスの認知的評価と活動後の感情の変化、活動後の否定的感情と長期にわたる不適応であった。影響要因である外生変数は、ストレスの認知的評価には性別、既婚、救援活動の時期、救援活動内容、問題焦点型対処行動特性であり、活動後の否定的感情は、正当な他者評価、活動中の対処行動であり、長期にわたる不適応には、否定的な自己評価、対処行動特性であった。構造モデルの適合度は、CFI 0.888、RMSEA 0.064、SRMR 0.036であり、一定の適合を示す値が得られた。また、性別により構造モデルに大きな違いが認められた。

本研究は災害救援看護職者の救援活動におけるストレスの認知的評価から活動後の感情の変化、長期にわたる適応・不適応に至るまでのプロセスや影響要因を示唆したもので、意義ある結果と考えられる。予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって本論文は予備調査委員合議の上、博士(看護学)の学位に値する論文として価値あるものと認める。